

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

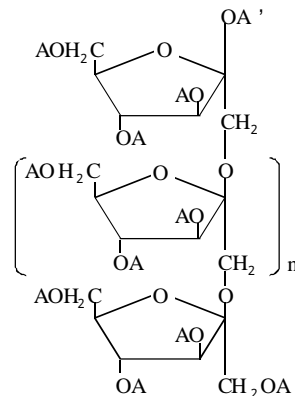
化学品の名称
 製品名 : レオパールISL2
 供給者の会社名称、住所及び電話番号
 会社名 : 千葉製粉株式会社
 住所 : 千葉市美浜区新港17番地
 電話番号 : 043-241-0111
 電子メールアドレス : kikaku@chiba-seifun.co.jp
 緊急連絡電話番号 : 043-241-0111(代)
 推奨用途 : 化粧品原料

2. 危険有害性の要約

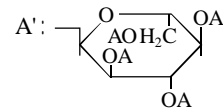
GHS分類 : GHS区分に該当する項目はない
 GHSラベル要素 : なし
 他の危険有害性 : 眼に粉じんが触れると物理的の刺激を引き起こすことがある。
 粉じんと接触は、皮膚の機械的の刺激または乾燥を引き起こす可能性がある。
 拡散した場合、爆発可能性のある粉じん-空気混合物を形成する可能性がある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質
 化学名又は一般名 : ステアリン酸イヌリン
 化学特性 (示性式又は構造式) :



A: -COC₁₇H₃₅
 または -H



または
 -COC₁₇H₃₅
 または -H

n: 0 ~ 60

化学物質を特定できる一般的な番号

CAS番号 : 190524-47-1
 官報公示整理番号 : 11-(1)-1441
 (化審法・安衛法)

分類に寄与する不純物及び安定 : なし
 化添加物

成分及び濃度又は濃度範囲 : 95%以上
 GHS分類上の裾切り値以下である不純物 : メタノール < 5ppm (弊社定量限界)
 ジメチルホルムアミド < 5ppm (弊社定量限界)
 -ピコリン < 300ppm

分類に寄与しない不純物 : ステアリン酸 5%以下

4. 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師の診断 / 手当を受けること。

皮膚に付着した場合 : 多量の水と石けんで洗うこと。
外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は医師の診断 / 手当を受けること。

眼に入った場合 : 多量の水で洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないこと。
口をすすぐこと。
気分が悪い時は医師の診断 / 手当を受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 水噴霧、粉末、泡、二酸化炭素

使ってはならない消火剤 : 棒状放水

火災時の特有の危険有害性 : データなし

特有の消火方法 : 火災発生場所の周辺への関係者以外の立入りを禁止する。
移動可能な容器は、速やかに安全な場所へ移動する。
延焼の恐れのないよう水噴霧で周囲の容器、施設等を冷却する。
消火作業は風上から行う。
消火に用いた材料が環境中に放出されないように注意する。

消火活動を行う者の保護 : 適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具 : 作業には必ず保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

および緊急時措置

環境に対する注意事項 : 漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 漏出物は掃き寄せる、または掃除機等で吸引し、適切な容器に回収して廃棄する。
空気中に粉じんが飛散しないようにする。
粉じん堆積物は、十分な濃度で大気中に放出される場合に爆発性混合物を形成する可能性があるため、表面上に蓄積させてはならない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の措置を行い、適切な保護具を着用すること。
防爆型の機器・設備を使用し、容器を接地するなど、静電気対策をとること。

局所排気・全体換気
安全取扱い注意事項 : 必要な局所排気、全体換気を備えた換気の良い場所で作業を行う。
粉じんを吸引しない。
接触、吸入防止のための個人保護具を着用する。粉じんの発生・蓄積を最小限に抑える。使用しないときは、容器を閉じておく。
熱や発火源を避ける。
流出、廃棄物の発生を防ぎ、環境への放出を最大限に抑えるように注意する。

衛生対策 : 眼洗浄システムおよび安全シャワーが作業場所の近くに設置されていることを確認する。取り扱う時に飲食または喫煙をしない。再使用前に汚染された衣類を洗浄する。

接触回避 : 『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管

安全な保管条件	: 適切にラベル付けされた容器に保管する。 火気、熱源を避ける。 容器を密閉して、直射日光を避け換気の良い乾燥した場所で保管すること。 未開封の状態での保存が望ましい。
混触危険物質	: 『10. 安定性及び反応性』を参照。
安全な容器包装材料	: 適さない物質: データなし

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等	: 許容濃度が設定されている物質を含有していない。
設備対策	: 必要に応じて取扱い場所の近くに手洗い、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。 必要な局所排気または全体換気を行うこと。
保護具	
呼吸用保護具	: 状況に応じて着用する。
手の保護具	: ゴム製保護手袋等を着用する。
眼、顔面の保護具	: 安全ゴーグル等を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖の作業着を着用する。 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 粉末または粒状の物質
色	: 白色～淡黄褐色
臭い	: ないか、または特異なにおいがある。
融点/凝固点	: 64～80
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: 危険物第2類試験方法の「小ガス炎着火試験」で不着火
爆発下限界および爆発上限界/可燃限界	: 適用外
引火点	: > 200
自然発火点	: 適用外
分解温度	: データなし
pH	: 適用外
動粘性率	: 適用外
溶解度	: 難溶: 水、メタノール、エタノール 可溶: キシレン、クロロホルム
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: データなし
相対ガス密度	: 適用外
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 反応性危険としては分類されない。
化学的安定性	: 通常の手扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性 有害な反応	: 粉じんは空気中で爆発性の混合物を形成することがある。 強酸化剤と反応することがある。
避けるべき条件	: 粉じんの発生を避ける。
混触危険物質	: 酸化剤
危険有害な分解生成物	: 危険有害な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

急性毒性

経口	: ラットへ2000mg / kgの用量で経口投与後死亡例はなかったため、区分に該当しないとした。 1
経皮	: データなし
皮膚腐食性 / 刺激性	: 6羽の日本白色種ウサギの皮膚に対する刺激性はなかったため、区分に該当しないとした。 1
眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性	: 5羽の日本白色種ウサギにおける眼刺激性試験の結果、Kay and Calandraの眼粘膜刺激性の分類ではPractically non-irritatingであったため、区分に該当しないとした。 1
呼吸器感作性又は皮膚感作性	
呼吸器感作性	: データなし
皮膚感作性	: モルモットによるAdjuvant and Patch法で「極めて弱い皮膚感作性を有する可能性が考えられるが、惹起される皮膚反応は非常に弱いと推察される」と結果があるが、陽性の判定基準とするには明確でないため、分類できないとした。 1
生殖細胞変異原性	: in vivoのデータがなく、in vitro変異原性試験(ネズミチフス菌および大腸菌の計5菌株)の陰性結果のみあり、分類できないとした。 1
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: データなし
誤えん有害性	: データなし
1 : 千葉製粉株式会社社内資料(株式会社富士バイオメディックス委託安全性試験結果)による、CAS NO. が同じ「イヌリンステアレート」製品名「レオパールISK」の情報を記載する。	

12. 環境影響情報

生態毒性	: データなし
残留性・分解性	: データなし
生態蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: モントリオール議定書の付属書に列記されている成分を含まない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄の際は、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合は、該当する業者に委託して処理を行うこと。
汚染容器及び包装	: 容器は内容物を除去してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連番号	: 非該当
品名(国連輸送名)	: 非該当
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	: 非該当
容器等級	: 非該当
海洋汚染物質(該当・非該当)	: 非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質(該当・非該当)	: 非該当
国内規制がある場合の規制情報	

陸上輸送	: 消防法、労働安全衛生法等の規制に従う。
海上輸送	: 船舶安全法の規制に従う。
航空輸送	: 航空法の規制に従う。
輸送時の特定の安全対策 および条件	: 輸送に際しては、容器の破損のないことを確かめる。 落下、転倒、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に 行う。 直射日光及び高温下での輸送は避ける。

15. 適用法令

消防法	: 法第9条の4、政令別表第四指定可燃物(可燃性固体類)(3,000kg)
化学物質排出把握管理促進法	: 非該当
労働安全衛生法	: 名称等を表示し、または通知すべき危険物及び有害物 非該当
毒物及び劇物取締法	: 非該当
化審法	: 特定・監視・優先評価化学物質に該当しない

16. その他の情報

参考文献

- 1) 千葉製粉株式会社社内資料(株式会社富士バイオメディックス委託安全性試験結果)
- 2) JIS Z 7252:2019 および JIS Z 7253:2019

記載内容は製品に関する一般的な取り扱いについて最善の調査に基づいて記載しておりますが、化学製品においては未知の有害性があり得るため、すべての情報を網羅しているものではありません。取り扱いには細心の注意が必要です。新たな情報の入手等により追加または訂正されることがあります。記載されたデータ及び評価はいかなる保証をなすものではありません。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件の設定をお願いいたします。また、特別な取り扱いをする場合には、新たに取扱いに適した安全対策を講じた上で、ご使用ください。当安全データシートは日本国内法規を基準に作成しております。